

大在地域まちづくりビジョン

大在地域まちづくりビジョン フォローアップ会議 通信 第1号

発行：令和元年11月1日 大在地域まちづくりビジョンフォローアップ会議事務局

この通信は、地域まちづくりビジョンフォローアップ会議の内容について地域の皆様にご報告するとともに、地域の現状や課題、将来像について共有していただくために発行いたします。

地域まちづくりビジョンフォローアップ会議の目的

個性を活かした魅力ある地域づくりを推進するため、市内13地域において、それぞれの地域が目指すまちの将来像やその実現に向けた取り組みをまとめた「地域まちづくりビジョン」が策定され、昨年7月に市長に提言されました。
 地域まちづくりビジョンフォローアップ会議は、**地域が目指す将来像の実現に向けて、市民と行政と一緒にまちづくりを進めるため「地域まちづくりビジョン」に掲げる事業について、「行政に望むこと」「地域でできること」「私たちができること」**のそれぞれのテーマにおいて、進捗状況を報告し、各取組の今後の進め方や課題などについて情報共有、意見交換を行うものです。

第1回大在地域ビジョンフォローアップ会議

■令和元年8月28日(水)19:00～

■大在市民センター 会議室

開会

1. 委員・自己紹介
2. 会長・副会長選任
3. 会長・副会長あいさつ
4. 議事

- (1)会議の公開について
- (2)地域まちづくりビジョンについて
- (3)地域まちづくりビジョンフォローアップ会議について
- (4)地域まちづくりビジョンに掲げる事業の進捗について
- (5)意見交換

5. その他

閉会



◆ビジョンに掲げる事業の取組み状況について (抜粋)

●提言1『教育を核としたまちづくり』(教育・福祉)

- ・地区内居住の大学生との連携事業を支援
- ・大在中学校グラウンド拡張事業の実施
- ・大在東部地区への新小学校建設に向けた校区再編成案を検討(地域)
- ・地域の団体等が放課後や週末等に学校の余裕教室を活用し行う「おおいたふれあい学びの広場事業(地域主体型)」の実施
- ・大在は、比較的近隣に都市公園グラウンドやスポーツ施設が充実しており、新たな施設整備には、全市的な地域バランスの考慮が必要
- ・子ども食堂等のネットワークの形成や団体への経費一部補助事業の実施
- ・老人クラブ等が運営主体となって多世代交流を行う「地域多世代ふれあい交流事業」の実施



●提言2『人を呼び込むふるさとづくり』(産業・福祉)

- ・県と連携し、企業訪問するなか、「利便性の高い交通アクセス紹介」など企業立地推進事業により雇用の創出を図る
- ・中小企業資金融資をはじめ設備投資や人材育成等に対する支援を行うなか、地域の中小企業育成に繋げている
- ・若年者の就労機会拡大のため、就労応援セミナーや合同企業説明会の実施
- ・「三世代同居・同居ハッピーライフ推進事業」「子育て・高齢者世帯リフォーム支援事業」により子育て世帯と親世帯の同居・同居を促進
- ・「移住者居住支援事業」により県外からの居住支援を促進
- ・ホームページを利用した「大分市住み替え情報バンク」により空家の利活用を促進
- ・大在地域の工場群見学プログラム等を紹介した「大分市産業観光ガイドブック」を作成して産業観光を推進
- ・観光事業立ち上げは、創業に係る経費を助成する「チャレンジ創業！」大分市創業者応援事業が利用可能

●提言3『防災機能の向上と自然環境との共生』(防災・都市基盤・環境)

- ・平成29年3月に日本文理大学と大分市による「災害に関する協定」の締結
- ・災害時の生活用水確保のため、大分市災害時市民開放井戸の登録を実施
- ・広域かつ多くの市民への情報伝達ツールとして携帯電話へ一斉配信する緊急速報メールの利活用開始
- ・江川・海岸部管理者である県へ、老朽化している大在干潟につづく木製通路をはじめ、干潟付近に設置しているベンチやウッドデッキ等施設の整備要望を伝える
- ・自転車専用路については、「大分市自転車走行空間ネットワーク整備計画」に基づき整備手法を検討
- ・舞子浜緑地は緩衝緑地帯として整備され、自然的空間を利用しやすいよう樹木剪定を実施
- ・「緩衝緑地帯(松林)の整備事業」では、舞子浜緑地を人に知ってもらい、人が集える場所に整えていこうとする地元有志が、「舞子浜リビングプロジェクト」を立ち上げ活動を始めた(地域)

◆【意見交換】委員のみなさんから多くのご意見がありました(抜粋)

●提言1について

- ◆市の方から教えていただいた多世代交流等の事業については、持ち帰って話し合いたい。
- ◆日本文理大学はスポーツが強く有名な大学なので、スポーツを通じた小中学生との交流等、コミュニティ活動は良い活動になる。
- ◆大学の一本祭への地元住民の参加を促し、学生が何をやっているのかを知ってもらうためブースの設置。また、大学生との触れ合いを感じてほしい。
- ◆住民と大学とのパイプ役となる学生窓口の設置を望む。
- ◆大在東部への新小学校では、あくまでも「子どもの目線」での校区編成が望ましい。



●提言2について

- ◆「循環型の地域に」をテーマに考えたとき、家庭の中で孫ひ孫から祖父母まで同居・近居で暮らす。この家庭がたくさん集まり地域を形成する。地域には雇用も必要であれば観光も必要となる。この度、県6号地に2社企業が立地したことは雇用の面からもありがたい。
- ◆大在には多くの文化遺産がある。そういう地に日本文理大学があり造船所も2箇所ある。これをバスで回ってもらうことも1つの観光事業となり、観光客を呼べれば買い物の場所も必要となるような好循環が生まれる。
- ◆大在の色々なイベントにおいて、大在の人だけで楽しむのではなく、大在地区外から多くの方が足を運んでくれるようになれば良い。
- ◆臼杵市の観光協会がSNSを利用しながら観光事業を成功させているので、情報収集・視察を行い参考にするとよい。

●提言3について

- ◆大在地区の津波脅威に対し、角子原からキヤノンに上がる市道「岡角子原線」沿い高台への総合グラウンドや備蓄倉庫も兼ねた体育館の建設が重要。
- ◆日本文理大学では災害時何処に逃げればいいのかというのをシミュレーションした防災マップを作成している。
- ◆防災の備蓄品や防災倉庫に揃える物等については、各自治会ではほぼ大丈夫だが、大在地区全体の組織が確立されていない。避難場所を高台に作る等の考えの中で、避難場所の整備も必要であり、特に大在は地震に弱いこともあり、防災士等で大在地区の「防災士会」をつくり、トータル的な防災システムを防災士会と一緒に話していくことが重要。
- ◆災害用に登録されている井戸については、行政の手により定期的に飲料用としての検査を行う等の支援が必要。

- ◆『誰も知らない「舞子浜緑地」を人が集う場所に!』の思いで「舞子浜リビングプロジェクト」と称して、イベントを打ち上げた。ファミリー層を中心にボランティアを含め200名程の参加で、清掃・草刈・カー体験・自然の中の昼食・緑地内サイクリング等で大人も子どもも大いに楽しんだ。



- ◆大在のサイクリングイベントはもう6回ほど行っていますが、競って走るのではなく、区画整理により平坦で広い道路整備がなされた大在の地を、親子でウロウロできることを体験し、まずは自分たちの街ということで、大在がいかに自転車がふさわしい街かを体感してもらっている。

- ◆大分市も積極的に自転車で海を渡るというような「豊予ふれあい協議会」の活動に取り組んでいるようですが、愛媛県を結んで佐賀関から大在を経由して大分を考えると、大在はちょうど良い位置となり中間拠点として緑地帯の活用も視野に入ると素晴らしい。



- ◆舞子浜緑地帯・大在干潟を大在の宝としてもっともっと知ってもらい、楽しい場所になりたい。緩衝緑地帯は森林浴には最高です。
- ◆地域の課題解決に対して市で予算立てなどの検討をしてほしい。
- ◆大在において観光という側面と地域づくりには、緩衝緑地帯・舞子浜の利用、大野川の桜や菜の花の親しみ、そして海岸部・大野川・江川・日美天川とため池を含めた親水化などを総合的に考え、今住んでいる人が魅力を感じる、豊かさを感じる事が大切。

※大在地域の3つの提言、12の事業名については裏面をご覧ください

◆今後について・・・(総括)

- ▼今回は、地域ビジョン提言後初めての「フォローアップ会議」開催で、地域と行政が双方に事業の思いや取組みに向けた必要性、また、実施している施策や計画等の情報共有が出来ました。
- ▼今後も定期的にフォローアップ会議を開催し、各事業の進捗状況を把握していくとともに、地域と行政で意見交換を行いながら将来像の実現に向けた取組みを進めていきます。

大在地域まちづくりビジョン【提言】 平成30年7月策定

＜提言1＞ 教育を核としたまちづくり（教育・福祉）

子育て世代や隣接する日本文理大学の学生が多く居住していることで、若年層の割合が高く、地域の活力となっている。この若年層を取り込んだ各種事業を構築することで、大在の元気をより推進するまちづくりが必要です。

また、将来の人口増を見据えた教育基盤の充実や子どもと高齢者の居場所づくりなど、安全・安心な環境・仕組みづくりが求められます。

[事業番号] 1・2・3・4・7

＜提言2＞ 人を呼び込むふるさとづくり（産業・福祉）

本地域には、今後も人口の増加が見込まれ、若年層の割合も高い地域であるが、同時に地域コミュニティの希薄化が進行しています。

新旧の住民がより住みやすい環境整備のため、地域行事による住民交流の促進や企業誘致、中小企業の成長促進等による生活基盤の確立を行うとともに、大在地域の魅力向上、発信していく必要があります。

[事業番号] 2・7・8・9

＜提言3＞ 防災機能の向上と自然環境との共生（防災・都市基盤・環境）

山、川、海に面した地域であることから、地域全体で取り組む防災対策や防災機能を持った公共施設整備など、ソフト・ハード両面において防災機能の強化、推進を図る必要があります。

一方で、その自然特性を生かす事業を推進し、新たな地域資源を創出することで、地域内外の交流を促進するまちづくりをすすめていくことを望みます。

[事業番号] 3・4・5・6・9・10・11・12

委員紹介 地域の各種団体の代表者の皆さまにご参加いただきました

会長 姫野 守正	大在地区自治委員連絡協議会	廣田 稔	大在地区老人クラブ連合会
副会長 藤野 孝徳	大在地区自治委員連絡協議会	加藤 康子	大在地区婦人会
姫野 清高	(株)桃太郎海苔	姫野 恭志	大在地区ボランティアの会
後藤 芳正	大分商工会議所 大在支所	長野 辰生	大在地域振興協同組合
上野 栄一	大在地区自治委員連絡協議会	田中 剛	大分商工会議所 大在商工青年部
工藤 健一	大在地区自治委員連絡協議会	半谷 富美子	大在中学校PTA
梅田 勝美	大在地区社会福祉協議会	森 快智	日本文理大学
首藤 正幸	大在地区民生委員・児童委員協議会		

計15名（役職・敬称略）

~~~~ お知らせ ~~~~

■「シンポジウム」開催について

日時：11月23日（土）13時30分から 場所：コンパルホール 3階 多目的ホール
地域まちづくりビジョンを広く市民と共有し、まちづくりの機運の醸成を図るため、子育て世代などの若い世代にも参加を呼び掛け、様々な世代が参加するシンポジウムを開催します。

■「ふれあい市長室」【大在地域】開催について

日時：11月26日（火）19時00分から 場所：大在公民館 集会室
フォローアップ会議の内容を報告する「市民報告会」を兼ねた「ふれあい市長室」を開催し、地域住民からビジョンや市政全般に対する意見、提言を幅広く伺い、事業実施に向けた相互理解を深め、市民と行政の一体感を醸成します。

『提言に基づく事業提案と概要』

事業番号	事業名	概要
1	大学生が動けるようなコミュニティ事業	・大学生と地域の子どもや大人とのふれあい（コミュニティ）の場をつくる ・地域のお祭りの手伝いや、子どもに歴史を教えたりする活動を行う
2	高齢者と子どもが一緒に集える場づくり	・共働きの家庭が多く、子どもが一人でいる時間が長いので、地域の子どもと高齢者が集える場所ができればよい
3	学校施設の整備	・大分市東部に小学校を建設する ・大在小と大在西小の距離が近くバランスが悪い（横塚の子が通学に1時間かかっている） ・大在東部の子どもの避難場所が必要 ・大在中学校グラウンドを拡充することにより地域の教育環境を充実させる
4	大在の南側高台に総合文化（スポーツ）施設を整備	・避難場所、文化、スポーツ施設が無い ・津波からの避難場所という観点からも大在の南側に整備してはどうか
5	災害時などに文理大生の協力を得る事業	・日本文理大学の学生に自然災害発生時、手助けしてもらえる組織をつくる ・その組織に加入すれば、大学や市の補助などで下宿代を安くする等
6	先進的・地域密着型防災組織づくり	・災害時の生活、防火用水等確保のため、災害用井戸の普及等に取り組みたい ・Jアラートによる情報伝達された際、聞こえる範囲が限定的であるため、より広範囲に周知できるシステム構築
7	ふるさと魅力づくり事業	・若者が帰ってきて住み続けるまち ・企業誘致により雇用を創出し、生活基盤を支えるまちづくり ・世代間交流（現在3世代が交流する行事が無いので、シャトルバス等により広範囲に参加者を募集できるようにする等） ・大在の魅力づくり（県外に出て行って人たちが大在を振り返ることができるSNS等を用いたツールの検討） ・大在のブランドづくり（商店と協力して大在のお土産づくり等）
8	平成のまち大在の観光事業	・観光事業に力を入れ、大在を「平成のまち」にする ・道の駅を整備したり、バスで南日本造船（三井造船）や文理大学の見学に回れるようにする ・長期スパンで地元の商店が潤う事業の構築 ・地域観光資源のブラッシュアップ、情報発信等を行う
9	自転車（サイクリング）を活かしたまちづくり	・大在商工青年部が春にサイクリングのイベントを実施しているが、このようなイベントを推進したい。ただし、大在のまちなみがサイクリングを行うには合致していない状況 ・イベント実施するための啓発活動やハード整備が必要
10	イベント広場（ステージ付きの公園など）の整備	・大在には子どもから高齢者までが使える公園が多いが、イベントを実施する時、設備が不足しており不便 ・公園にステージを設置して音楽など様々なイベントに利用できるようにする
11	緩衝緑地帯（松林）の整備事業	・緩衝緑地帯（舞子浜緑地）に大人や子どもがふれあえる場所を整備する ・散策しやすい歩道、松林を活かした遊具の設置等
12	河川（江川）、海岸線、ため池の有効活用	・大在の地理的環境を活かして、江川に遊歩道の整備や昔の海岸線が残っている部分を活用し釣り場を整備するなど、親水事業に取り組む ・併せて災害対策に避難場所の整備も必要